

「予報技術者のためのオンライン講習会(応用演習コース)」ご案内

1. 講習対象者

この講習会は気象予報士の資格を有している方で気象に関する業務に従事している方のほか、気象に深い関心をお持ちで、気象予報など実践的な技術を習得したいと考えておられる方を対象としています。

また、講習の内容は特に高い専門性を必要とするものではありませんので、気象に関わる業務に従事した経験がない方でも興味を持って受講していただけますが、前期「基礎演習コース」で行った基本的な天気図解析の実習経験があることが望ましいです。

【受講の条件】

本オンライン講習会は、オンラインミーティングツール「Zoom」システムを用いて行います。そのため、この「Zoom」システムを利用できることが必要です。また、実習及び質疑・応答の際に音声及び画像の共有ができることが必要です。

2. 講習のテーマ

『実況（高層天気図なども含む）の解析と予想天気図を活用して現象の理解・予想を考える』です。

3. 講習期日

2020年度の講習会は1月から3月までの3か月間、以下の日の18時30分から21時の2時間30分で開催します。

1月15日、29日 2月12日、26日 3月12日、26日

【注意】：2020年12月2日に、日程の変更3/19⇒3/26を行っています。

4. 講習目標

毎年のように大きな災害が発生しており、2019年には台風第19号によって、多数の河川が決壊、氾濫するなど大きな災害が発生しました。2020年も7月豪雨が発生し球磨川流域などで甚大な災害が発生しています。

地球温暖化が背景として近年短時間に集中して降る大雨が増えているといわれています。応用演習コースでは、大雨事例について実況解析を行うとともに、予想天気図を使っての現象の予測、防災上の留意点などについて、演習を中心として行います。

現象についての演習を重ねることで、実践的な天気解析、予報技術向上を図ることを目指します。

5. 講習の内容と進め方

天気図の解析やレーダー、気象衛星等の実況資料を活用した解析による現象の理解を進めて、予想天気図を使って現象の予測、防災上の留意点の把握等の演習を中心として基礎から応用的な技術習得までを目指します。

『実況（高層天気図なども含む）の解析と予想天気図を活用して現象の理

解・予想を考える』をテーマに、最近の事例から各種実況や予想天気図に描かれた等圧線や等高度線、渦度や鉛直流などの物理量の解析、解釈などを通して現象の把握、理解と予測のため読み取りポイント習得します。

実習は、近年の大雨災害事例などを対象に、天気図やレーダー、気象衛星、局地天気図などの実況の資料を中心とした解析と予想天気図を活用して現象の予想を行うとともに、防災上の留意点なども考えていきます。

講習は、主に気象庁 HP など入手可能な天気図、解析図、解説資料などの資料を用います。受講後もこうした天気図や解析図を活用して、受講によって得られた知見を広げることができるように講習を進めます。

気象予報士の資格の有無とは関係なく、資料の読み取り、現象の把握、予測のための検討など、予報に関わる技術を身に付けることは容易ではありませんが、実際に起こった事例を取り上げて、繰り返し演習を行うことで基礎的で実践的トレーニングができ、確実にスキルの向上を図っていきます。

演習は提示した手順や手法に沿って受講者が自ら資料を読み取り、考察しますが、適宜講師による解説や受講者との質疑などを通じて事例への理解を深めます。

なお、講習で使う資料については、事前〔1週間程度前〕に紙ベース及びファイルで送付します。

6. 募集定員

40名（先着順）

7. 受講料（教材を含む）

20,130円（18,300円+消費税）

8. 申込み方法

「受講申込書」に必要事項をご記入の上、下記の申込先へ電子メールでお申し込みください。

受講の申込みは先着順です。

メールにより受講の受付け後、受講料の振込先をご連絡しますので、受講料を指定の銀行口座にお振り込みください。

また、請求書・受領書等を必要とされる場合は申込書備考欄に名義と必要書類をお知らせください。

なお、一旦納入された受講料の返金には応じかねますのでご承知置き願います。

宛 先

（一財）気象業務支援センター 「講習会」 担当 宛

E-mail : methiroba@jmbsec.or.jp

9. その他

今般の新型コロナウイルスにより、今回の募集に関し中止させて頂く場合もあります。その際には弊センターホームページにてお知らせしますので、予めご理解とご協力をお願い致します。

また、その際には、受講料は返金させて頂きます。